

2026 1

No.302



GP

全グラ情報

JAPAN



令和8年 年頭所感

経済産業省 商務・サービスグループ 文化創造産業課

クリエイティブ産業室長 萩野 洋平



令和8年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

印刷産業の皆様におかれましては、平素より弊省の政策にご協力を賜りありがとうございます。

我が国では、数年間にわたる DX、GX 等の成長分野への積極投資が芽吹き、名目 GDP が初めて 600 兆円の大台を超えるなど、明るい兆しも現れ始めています。こうした流れを着実なものとするべく、本年の経済政策の最重要課題の一つとなるのは、物価高に負けない賃上げや、国内への成長投資が進む環境を作ることです。昨年の高市総理の所信表明演説においても、「更なる取引適正化等を通じ、賃上げと設備投資を強力に後押しします」との力強いメッセージが示されました。

他方、昨年9月の価格交渉月間の調査では、印刷業の価格交渉の実施状況の数字は、改善しているものの、他業種と比べて低くなっています。「発注減少や取引停止を恐れ、交渉を申し出なかった。」という声も聞かれています。印刷業は、受注産業であり、サプライチェーンの頂点は、あらゆる分野の産業と言えます。経済産業省としては、今後とも業界の皆様と強く連携し、これまで以上に、価格交渉しやすい環境の醸成に向けて取り組んでまいりたいと考えておりますので、発注元となる他の業界に対しても、我々と連携しながら、取引適正化に向けた協力を呼びかけてまいりましょう。

さて、制作年が明確な現存世界最古の印刷物とされるのは、奈良時代の藤原仲麻呂の乱鎮定後に印刷された、「百万塔陀羅尼」です。称徳天皇の発願により官営事業で作られた、百万基ともされる小塔には、印刷により量産された「陀羅尼經」が収められました。日本の印刷文化は、その曙において発注元が「官」であったことは興味深く、文字・図像等情報の保存と伝達を役目とする印刷産業の歴史は、官公需とともにあったと言えます。

官公需の発注については、経済産業省も当事者となります。国、地方自治体

においても適切な価格転嫁が行われるよう、経済産業省としても必要な対応にしっかりと取り組んでまいります。

地方を中心に、価格転嫁はおろか、価格が下げ止まらないという声が聞かれます。この対策として、自治体における低入札価格調査制度や最低制限価格制度の導入が重要となってきますが、これらは各自治体において適切に予定価格が算出されて初めて機能します。過度な競争により実勢価格と乖離した予定価格の積算がされないよう、官公需に参加される事業者の皆様には、具体的な根拠に基づいた積算を行っていただき、適正な価格形成がされるよう、ご協力ををお願いいたします。

物価上昇に負けない賃上げを起点として、国民の所得と経済全体の生産性向上を図るという成長戦略、その要が価格転嫁・取引適正化であり、サプライチェーンの隅々まで行き届くよう、皆様にはぜひリーダーシップを発揮していただきたい点、改めてお願いします。

最後になりましたが、皆様のご多幸と事業のますますの御発展を心より祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

あらゆる環境測定から
環境対策まで幅広く
全国的にサポートいたします。

(作業環境測定・VOC等)



ガスクロマトグラフィー

全炭化水素計(島津製)

作業環境測定

- 会員他各社の工場内外環境測定
70社×2回/年×40年=5,600回
- 工場内改善コンサル 100件
局所排気装置・室内空調バランス等

VOC対策

- VOC対策のコンサルタント
改善工事の基本設計・施工の紹介等
- VOC対策の前提となる実績データの取得
測定実績：グラビア印刷機：1,074台
ラミネート機：1,146台
コーティング機：818台
(2021年3月末現在)



当分析センターは全国グラビア協同組合連合会で設立致しました分析会社です。

40年来、作業環境測定を通じて、各社作業環境の改善を継続しておりますが、平成18年の「大気汚染防止法」改正よりVOC対策に対し全国展開を図り、約3000件の測定実績を上げております。

オフセット印刷工場のリスクアセスメントのリスク見積りとして、トータルVOC(ノナン換算値)測定も行っています。

また、上記の他に環境測定全般につきましても対応できる機能・体制をもっております。

株式会社 全国グラビア分析センター

〒130-0011 東京都墨田区石原1-16-1
Tel:03-3624-4523 Fax:03-3829-3817
E-mail : grv-analysis@almond.ocn.ne.jp

計量証明事業登録 東京都知事第1249号
作業環境測定機関登録 東京労働局第13-35号
労働衛生コンサルタント登録 厚生労働省 工-第186号

GP JAPAN

全グラ情報

2026年1月号 No.302 全国グラビア協同組合連合会

今月の表紙



写真上段左：関西グラビア協組青年部忘年会、右：関東グラビア協組青年部秋季研修会、写真下段左：関西グラビア協組年末情報交換会、右：富士特殊紙業「日本におけるベトナム労働者の日」表彰

CONTENTS

卷頭言 令和8年 年頭所感 ①

経済産業省 商務・サービスグループ 文化創造産業課
クリエイティブ産業室長 萩野洋平

年頭所感

(一社) 日本印刷産業連合会 会長	磨 秀晴	⑥
全国グラビア協同組合連合会 会長	田口 薫	⑦
北海道グラビア印刷協同組合 理事長	若狭博徳	⑧
関東グラビア協同組合 理事長	吉原宗彦	⑩
埼玉県グラビア協同組合 理事長	市村清一	⑫
関東プラスチック印刷協同組合 理事長	大月裕樹	⑭
北陸グラビア協同組合 理事長	織田憲三	⑯
東海グラビア印刷協同組合 理事長	杉山真一郎	⑯
関西グラビア協同組合 理事長	高桑真樹	⑯
九州グラビア協同組合 理事長	母里圭太郎	⑰
全国グラビア製版工業会連合会 会長	中嶋健一	㉑

企業クローズアップ ㉒

「日本におけるベトナム労働者の日」式典、優秀なベトナム人受入企業として表彰
富士特殊紙業(株) 代表取締役社長 杉山真一郎

組合員・単組の近況

- 関東グラビア協同組合青年部 2025年秋季研修会：富士機械工業工場見学
および水性印刷の実機デモ、ハイブリッドグラビア印刷×水性インキテスト 24
- ～次世代環境対応印刷の可能性を探る～ 24
- 報告者：信和産業(株) 石澤英樹
- 関西グラビア協同組合青年部：令和7年度忘年会 28
- 関西グラビア協同組合：令和7年度年末情報交換会を開催 30

展示会レポート

- エコプロ2025：機能性と環境性の両立を目指して業界横断で連携 33
- 報告者：全国グラビア協同組合連合会 専務理事 下田幸二

酒は永遠の友 vol.12 田口 薫 34

Data Watch 2025年9月データ 36

紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2025年10月... 42

Information

- 東京計器、検査機器システムカンパニー住所移転 23
- DICグラフィックス、「DICデジタルカラーガイド」にAI配色検索機能搭載 27

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円+税です。

購読および広告出稿を希望される方は、
全国グラビア協同組合連合会まで。
e-mail : zenkoku-grv@jfpi.or.jp



発 行：2026年1月10日

発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）

発行所：全国グラビア協同組合連合会

〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9

あさひ墨田ビル

TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814

編集スタッフ：下田幸二（全国グラビア協同組合連合会専務理事）

酒井由香（同）

編集協力：(株)加工技術研究会

印 刷：(株)DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2026

落丁・乱丁はお取り替えします。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

2026年

年頭所感

(一社) 日本印刷産業連合会

会長 磨 秀晴



令和8年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、日本印刷産業連合会（日印産連）の運営に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の日本経済は、好調なインバウンド需要や高水準の賃上げが景気を支える一方、物価上昇と人手不足が景気全体の回復を鈍らせました。印刷産業においても、急激な労務費、原材料費、エネルギーコストの上昇が各企業に大きな影響を与えており、物価上昇分を確実に価格転嫁していくことが喫緊の経営課題となりました。

政府は、物価高に負けない賃上げと、国内への成長投資が進む環境を作ることを経済政策の最重要課題として、サプライチェーン全体での価格転嫁・取引適正化に徹底的に取り組むよう、すべての産業に要請しています。また、本年1月1日より「下請法」が改正され、「中小受託取引適正化法（通称「取適法」）」として施行されました。中小受託事業者における賃上げの原資の確保と利益保護を目的として、中小受託取引の適用対象が拡大し、義務内容・禁止行為が厳格化されています。特に手形払いについては禁止となり、支払い期日の厳守が求められることになりました。「取適法」および自主行動計画の遵守に向け、発注側・受注側ともに積極的に協議の場を設けていただくようお願いいたします。

一方で印刷産業は受注産業であり、サプライチェーンの頂点となる発注元への働きかけが欠かせません。日印産連は主要発注元の業界団体に対して、価格転嫁と商習慣の見直し等、取引適正化の協力要請に取り組んでまいる所存です。会員10団体並びに賛助会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

社会全体のDXやAI活用が進み、事業環境だけではなく、人々の生活までも大きく変わっていくなかで、我々印刷産業は長年培われた印刷技術を核に、時代の変化に対応した事業ポートフォリオ変革に取り組まなければなりません。「高付加価値コミュニケーションサービス産業」として社会に求められ続ける産業であるために、会員10団体が力を合わせサプライチェーン全体での取引適正化に取り組み、新たな価値創出、事業領域の拡大に向けた連携・共創を推進します。

日印産連は本年も、印刷産業の価値向上と持続可能な社会の実現に向けて、関係省庁、会員10団体、賛助会員、関係業界団体の皆様と共に様々な活動を行ってまいりますので、皆様には引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、さらなるご発展とご健勝を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

2026年

年頭所感

全国グラビア協同組合連合会

会長 田口 薫



皆様、明けましておめでとうございます。日頃は、全国グラビア協同組合連合会の活動に多大なご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、日本の歴史上初めて女性総理が誕生しましたが、一方、中国との関係は悪化し、観光客の減少等、インバウンド消費も陰りが見えてきました。世界ではロシアのウクライナ侵攻や中東での紛争の長期化等、国際情勢が私たちの事業や生活に多大な影響を及ぼしています。原材料費やエネルギーコストの上昇が収益を圧迫し、人手不足や賃金上昇が経営環境を厳しくしています。暮れには仲間の1社が破綻に追い込まれました。

このような環境の中、全国グラビア協同組合連合会は、組合員や従業員の生活レベル改善に全力を挙げて参りました。経済産業省・中小企業庁、公正取引委員会ともコミュニケーションを取りつつ、価格転嫁の方策を模索して参りました。幸い、中小企業庁では価格交渉講習会を催してくださいり、具体的なポイントを示してくださいました。また、下請法という名称が取適法となり、下請振興法が改正され取引条件が大きく改善されることになりました。このことは、私たちの各組合員や小規模事業者にはまだ浸透しておりません。本年は、この啓蒙活動から始めたいと考えております。

賃金の改定のためには、適正な取引条件、特に適正料金の確保が必須でございます。私は「フルコスト主義のすすめ」という文章を通して、老朽化した設備のメンテナンスコストや設備の改善・買い替えコストも計算して、業界の劣化を防ぎ、原材料や設備を提供してくださる関連業界とともに、相手よし、自分よし、世間よしの三方よしの業界に変わっていくよう力を尽くしたいと存じますので、皆様のご協力を切望するものであります。

本年も皆様がご健康でご活躍されますことを心より祈念申し上げます。

2026年

年頭所感

北海道グラビア印刷協同組合

理事長 若狭博徳



新年あけましておめでとうございます。旧年中は組合活動に対し多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2026年は下請法改正（取適法）をはじめとする取引適正化の波に加え、労働基準法の議論の進展など、法令遵守の基準が大きく見直される年となります。コンプライアンス体制を再点検し、企業活動の透明性と持続可能性を高めることや、社会保険適用拡大や連続勤務の規制など、人材戦略の転換期とも言えます。『人への投資』を加速し、かつ自動化・省力化・DX推進による生産性向上を更に推し進め、組合企業各社がより安定した経営へと前進されることだと思いますが、私たち北海道グラビア印刷協同組合としては、2026年はそれ以上に対処しなければならないことがあります。それは2026年6月11日に開催されます全国グラビア協同組合連合会の総会と翌日のゴルフ・旅行を滞りなく進められるように、北海道の会員全員で団結して準備しなければならないということです。

ここで、全国の皆様には事前に少し北海道のことを知っていただきたく、簡単にご紹介させていただきます。

私達が暮らす北海道は日本列島の最北に位置し、本島と大小1,472の島々で構成されています。人口は約500万人、総面積は約83,423km²、これは日本全体の約22%で、九州と四国を合わせたくらいの面積を有します。北海道の花は「ハマナス」、鳥は「タンチョウ」です。

北海道は「北海道」という名前が付くまで「蝦夷地」と呼ばれていました。「北海道」に改称されたのは1869年で、名付けたのは幕末の探検家である松浦武四郎です。「道」とは、主に奈良時代から使われている地方行政の基本区分の1つです。一時期は北海道にも函館県、札幌県、根室県の3県が存在した時期がありますが、「官吏の数ばかりが増えて非効率」などの批判や反対意見が多かったために廃止され、1886年に北海道全体を管轄対象とする「北海道庁」が設定されました。以来、全体で1つの行政単位となったため、「北海道」と呼ばれています。千島火山帯と那須火山帯に属しているため多くの美しいカルデラ湖があり、その各地が観光名所になっています。日本一大きいカルデラ湖の「屈斜路湖」、透明度の高い「摩周湖」、マリモが生息する「阿寒湖」などが有名です。北海道の主な文化はアイヌ文化です。アイヌ民族は北海道の先住民族で、独自の言語である「アイヌ語」や、

あらゆるものには魂が宿っていると考える「精神文化」、モレル（渦巻文様）やアイウシ（括弧文様）を基本としたアイヌ文様など、固有の文化を発展させてきました。北海道市町村名の約8割がアイヌ語に由来すると言われています。白老町のウポポイや平取町の二風谷、阿寒湖のアイヌコタンなどでアイヌ文化に触れることができます。

北海道出身の著名人は、松山千春、大泉洋、中島みゆき、水谷豊（俳優）、タカ＆トシ（芸人）、千代の富士、内藤大助、モンキー・パンチ（漫画家）、安住紳一郎（アナウンサー）、などがいます。1920年、流通業の「葛原商会」が、魚の大型冷凍庫を北海道茅部郡森町に設置したことが、日本における冷凍食品事業のルーツとされています。

最後に、北海道の郷土料理で有名なのはジンギスカン（焼き・煮込みがある）、石狩鍋（サケや野菜の味噌味の鍋）、いかめし（いかのお腹にもち米を詰めて味付けしたもの）、骨ごと食べられるかすべ（エイ）の煮つけなどがあります。石狩鍋はアイヌの伝統料理「チエプオハウ」とよく似ています。アイヌ語でチエプは鮭、オハウは温かい汁物という意味です。オハウは有名な漫画「ゴールデンカムイ」にも度々出てきます。北海道には有名なお土産が沢山ありますが、まだ皆さんが知らない（かもしれない）ところで言えば、ルタオの「ナイアガラチョコレート」、わかさいも本舗の「北海道あんぽてと」、もりもとの「豆を楽しむ北海道どら焼き」などもオススメです。北海道では是非皆さんのお越しをお待ちしております。10年に一度のことですので、皆様に来て良かったと言っていただけるよう、一丸となって頑張る所存でございます。

2026年

年頭所感

関東グラビア協同組合

理事長 吉原宗彦



新年あけましておめでとうございます。旧年中は組合活動に対し多大なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年を振り返りますと、1月20日、第47代アメリカ合衆国大統領にドナルド・特朗普が就任し、第2次政権をスタートさせるやいなや、アメリカファーストを主張し、他国に対する相互関税を強行し、世界を混乱の渦に巻き込みました。日本経済も自動車関税を含め、相互関税発動以降、大変不安定な状態が続いております。明るいニュースではアメリカメジャーリーグにおける大谷翔平の大活躍が挙げられます。自己最多の55本の本塁打を放ち、投手としては、795日ぶりの勝ち星をあげ、ポストシーズンでも二刀流復活を見せつけ、チーム初の2年連続ワールドシリーズ優勝へ貢献しました。3年連続4度目のMVP受賞と毎年ではありますが、最高のシーズンを送りました。一方、環境変化による自然破壊の影響でしょうか、北海道、本州各地でクマの出没が相次ぎました。農作物の被害は勿論、人への被害も大きく死傷者数が196名（2025年11月18日現在）と過去最悪となってしまいました。政府も自衛隊の出動、警察官のライフル銃使用許可など対応は取っていますが、すぐに解消する問題ではないため、政府、自治体一体となった抜本的対策が必要と思われます。2025年は良かれ、悪しかれ「特朗普、大谷、クマ」が連日ニュースを騒がせた年でありました。

本年の干支は午年であり、60年に一度の丙午（ひのえうま）の年でもあります。

丙午の年は迷信で出生数が少ないと言われています。前回の1966年（昭和41年）の出生数は136万人、前年1965年が182万人、翌年1967年が194万人でしたので、迷信が当たってしまいました。人口減少が問題となっている今、迷信通りにはなって欲しくないと心より祈るばかりです。

その1966年ですが、どのような年であったかといいますと、出生数は減ったものの総人口が1億人突破、メートル法への完全施行、ビートルズが来日し日本中が熱狂。国内の歌ではマイク真木の「バラが咲いた」、千昌夫「星影のワルツ」、西郷輝彦（辺見えみりのお父さん）「星のフラメンコ」、美川憲一「柳ヶ瀬ブルース」が流行りました。また、この年からスタートしたものも多く、特撮テレビドラマ「ウルトラQ」（ウルトラマンシリーズのスタート）、日本テレビ「笑点」、「週刊プレイボーイ」創刊、サンヨー食品「サッ

「ポロ一番しょうゆ味」（サッポロ一番ブランド開始）、エスビー食品「ゴールデンカレー」、明星食品「チャルメラ」、江崎グリコ「ポッキー」の発売、我々の業界では藤森工業（現：ZACROS）がフランスのチモニア社からスタンドパウチの技術を導入した年でもあります（翌年、日本初のスタンドパウチ「ドイパック」の製品化）。これらは驚くことに、60年前にスタートしたにもかかわらず、今でもしっかりと残っているということです。「笑点」のようにメンバー（表面上）は変わっても、構成（核心部）は変わっていません。

これは企業に置き換えると、販売する製品は時代のニーズに応じて表面上は変化するものの、企業の核心となる部分、文化、伝統、理念が変わらない、そのような企業ほど力強く継続していると感じます。

近年、外国企業より日本上場企業の実力、業績が評価される一方、円安もあり株価の割安を感じ、外資中心にファンド会社による日本企業株の買い占めが多く見受けられます。そのファンド会社が「物言う株主」（アクティビスト）として、企業の経営方針、伝統、文化などに短期の業績だけを見て、変更を突き付ける事例が多発しています。彼らは短期間に企業価値だけを高め、企業株価を上げ、その企業株を売り、儲けることが仕事です。「顧客から預かる資金を運営する以上、株価が上がれば売る。それがプロだ」（あるファンド会社の代表の言葉）。株主として企業を応援し、育てるという概念はなく、企業の永久的存続、企業の社員およびその家族の生活の向上には関心がないのです。日本経済の発展のためにも、上場企業におきましては、アクティビストに負けず、良き企業の伝統、文化、理念を残しきれない企業経営を邁進していただきたいと考えますと同時に、自分自身の会社が力強く継続していくために、自社の文化、伝統、理念をしっかりと見つめ直す年にしたいと思う所存です。

午年は「物事がウマくいく」「幸運がかけめぐる」と縁起の良い年もあります。

皆様方の会社におかれましても、本年が良い年でありますようお祈り申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

2026年

年頭所感

埼玉県グラビア協同組合

理事長 市村清一



新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

さて、2025年を振り返ると、1月にトランプ氏がアメリカ合衆国大統領に就任した発足直後から「トランプ関税」を発動して国際的な貿易摩擦を生み出し世界経済は混乱した。日本経済にも大きな影響を与え、自動車関連産業を中心に2026年3月期決算の約30%強の企業が『減益』を見込んでいるとのデータもある。また、国際紛争もイスラエル・ハマス間で停戦合意はしたが未だに戦闘は継続している。ウクライナ紛争は解決の糸口さえ見えて来ない状況である。『パックス・アメリカーナ』(アメリカによる平和)の終焉を強く実感させられる。

国内では、全国的に猛暑となり統計開始以来また平均気温が記録更新となった。「温暖化」によって毎年のように記録更新が今後も続くのか? 日本には四季がなくなり「二季化」が進行していく感じである。「温暖化」によって農産物・水産物などの収穫に大きな影響を与えることが心配である。秋・冬の代表的な味覚である「牡蠣」が瀬戸内海の養殖業者に甚大な損害を与えているとの報道もあった。

さて、経済では「物価高対策」が重要な課題である。2020年代に入り、「消費者物価指数」は上昇している。

2022年→3.0%・23年→3.1%・24年→2.5%・25年→約3.0%となり、バブル景気末期以来の約30年振りの上昇率が継続している。特に食料品の値上げが注目されている。1回当たりの平均値上げ率は約15%と大幅で、22年→2万6千点・23年→3万2千点、24年→1万2千点、そして25年→2万点と前年より点数は増加している。大手食品メーカーはホームページ等で値上げ理由をいくつか列記しているが、必ず『包装資材の高騰』を明記している。25年は各コンバーターが大手食品メーカーに対して一斉に大規模な値上げを実施したとの話題はあまり聞かない。値上げの口実にされている気もある。大いに疑問である。

年も改まり2026年を迎えた。昨年の11月に自維連立で誕生した高市政権の経済政策に与える影響が注目される。「積極財政」「大型補正予算」と財政出動による円安進行および長期国債金利上昇というマイナス要因にならないか気掛かりな点もある。今回の経済対策で注目すべき点は『設備投資促進税制』である。5年間の時限措置として導入する設備

に対して初年度に一括して「即時償却」できる税制である。印刷機・ラミネート機、さらに工場建設と大型の設備投資を検討している場合は活用できる税制であると思われる。

近年、インフレによる消費者の購買力低下、食料品に対する購入点数の絞り込み等により、軟包装のベースとなる各種フィルムの出荷量も減少傾向にある。今年は「消費者物価指数」の上昇率が1.6%と昨年より縮小する見込みであり、食料品の値上げも4千点と昨年の80%減少が見込まれている。今年は、軟包装業界全体にとって上昇機運の1年となることを大いに期待したいところである。

さて、今年の干支は「丙午(ひのえ・うま)」である。火の要素を二重に持つところから「情熱」「決断力」「リーダーシップ」など力強い年になると言われている。半面、「丙午」は『気性が激しい』との迷信から出生を避ける傾向があった。日本が高度経済成長の輝きを放っていた昭和40年代にその傾向は出ている。昭和40年生→182万人・昭和41年生(丙午)→136万人・昭和42年生→193万人と、前後の年と比較して約25%の大幅減少になっている。政府が公表している2026年「将来推計人口」には「丙午」の影響は想定されていないらしい。令和の時代、科学的根拠のない迷信でも、伝統文化・風習・習慣など日本人には潜在意識として根付いている部分もある。心配な点である。いずれにしても、今年も「人手不足」・「賃金上昇」・「原材料上昇」等が予測され、厳しい1年間となるがポジティブな思考で対応したいと思う。最後に、各企業様の益々のご繁栄と会員皆様のご健勝を祈願致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

2026年

年頭所感

関東プラスチック印刷協同組合

理事長 大月裕樹



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は、当組合の運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は当業界を取り巻く環境は依然として厳しく、社会全体の構造変化も急速に進んでおります。特に近年は、デジタル化の進展に伴い、サイバーセキュリティの脅威が企業経営にとって無視できない課題となっております。中小企業を狙った不正アクセスや情報漏えいの被害が全国的に増加しており、私たち印刷業界においても、顧客情報や製版データの管理体制が一層問われる時代に入っています。

こうした中、当組合では、情報セキュリティ対策の強化を重要課題と位置づけ、関係機関との連携を図りながら、会員の皆様に有用な情報提供や研修機会を充実させてまいります。デジタル化と安全対策を両立し、安心して業務を継続できる環境づくりに努めてまいります。

また、環境対応や人材確保といった従来の課題にも引き続き取り組み、業界全体の持続可能な発展を目指して活動を推進してまいります。

本年が、当業界の皆様にとりまして実り多き一年となりますよう心より祈念申し上げるとともに、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

2026年

年頭所感

北陸グラビア協同組合
理事長 織田憲三



新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶び申し上げます。

前年度より、北陸グラビア協同組合の理事長を拝命し、グラビア印刷業界の発展に向け、皆様と共に歩む機会をいただきましたことを心より御礼申し上げます。

当社アートパックス(株)は、食品包装資材を扱っている親会社の北陸デラップス(株)の関連会社であり、なおかつ私は営業マンあがりで、工場のオペレーターの経験はありませんので、創業社長ではありますが、グラビア印刷の全くの素人であります。

前置きはさておき、2025年は、需要構造の変化やコストの上昇、環境の変化の加速などグラビア印刷業界にとって、大きな転換点となる一年でした。

経済・経営的な面からは、①人材不足、②賃上げ、③当業界の改善・改革等、課題を挙げれば、山ほどあります。これは日本全産業、社会に関係していることであり、避けて通れないことであり、解決していくかなければならないことです。

1つ目の『人材不足』については、グラビア印刷業界として外国人技能実習生の受け入れ制度ができ、解決への第一歩となってきています。これは当組合の大きな成果であります。

2つ目の『賃上げ』については、『ソフトパッケージ』グラビア印刷物（軟包材）の価値を再認識して、ユーザーとの交渉に臨む事が必要と考えます。それには、全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長が語っておられる『フルコスト主義』による原価計算の見直しを行い、製品の値上げをして、再分配の原資（利益）を確保する必要があります。

3つ目の『グラビア業界の改善・改革』は、一企業だけではなく、業界全体の統一感認識が必要だと思います。当業種は、営業利益率が低く、本来であれば10%以上はあってしかるべきではないでしょうか。新台印刷機が買えない、新建屋の建築、工場内環境改善、上記の待遇改善等、課題解決には、利益なしにはできないことです。

当社としては、第7期中長期ビジョン『ウェルビーイング』『DX デジタル化』『SDGs』等、トータルシステムの構築をめざしております。会社の繁栄が社員の幸せと一致する経営をめざして、対応していきたいと思います。

本年も一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

会員皆様方のご繁栄とご多幸を祈念いたしまして、新春のご挨拶とさせていただきます。

2026年

年頭所感

東海グラビア印刷協同組合

理事長 杉山真一郎



新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

常日頃、組合活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年11月、10年の長きにわたり、関西グラビア協同組合の理事長としてご尽力いただきました竹下晋司前理事長の訃報を聞き、6月の総会では理事長退任のあいさつとともに、まだまだ全グラにはかかわるとのお話でしたので大変驚きました。あらためてお悔やみ申し上げます。

葬儀の日が全グラの理事会であり、冒頭田口 薫会長より、特に関西地区でのグリーンプリンティングの普及活動や大阪に実習生の試験会場を作るなど、竹下前理事長の功績を伺い、業界に多大な貢献をされたことに感謝申し上げます。私個人としては青年部を竹下前理事長が立ち上げ、私は東海の青年部長として第1回の全国大会を名古屋で開催させていただいたことや、京都オムロンへ東海の青年部が研修へ行き懇親会を川床で開催した際、竹下前理事長をお呼びしてお話をさせていただいたことは今でも良い思い出です。我々は竹下前理事長の意思を受け継ぎ、次世代に渡していくなければならないと思っております。

さて、昨年私は新年の所感の中で米国も日本も物価高に苦しんでおり、それが政権交代、与党敗北につながったのではないか、新しい国のリーダーは国民の期待に応えるために物価高対策をとるのではないかということを書きました。しかし、1年経った今、米国も日本も物価高は相変わらずで、特に日本は1年前よりひどくなっているのではと感じます。

日本は憲政史上初めて女性の首相が誕生しました。世論調査では国民の期待は高いように思います。国は賃上げを強力にすすめており、特に多くの企業にとって賃上げの原資である価格転嫁について、今までにないサポートをいただいていることは心強いです。しかし、価格転嫁が賃上げの原資であるうちは実質賃金がプラスになることは難しいのかもしれません。私は価格転嫁をしなくても賃上げができるなどをやらなければ、賃上げと価格転嫁のループから抜け出すことができないと思います。政治には実質賃金が上がる政策を期待しますが、我々ができることとしては生産性の向上ではないでしょうか。

社内の生産性のみならず、我々が協力して業界の生産性の向上に取り組むことは全グラが常々申し上げているパッケージは社会インフラである。私は社会インフラであるなら安定供給が最優先事項だと考えていますので、生産現場に人が働きたがらない、求人しても

なかなか応募がないこの時代において、業界の生産性向上は安定供給に寄与するのではと考えます。そして自ずと省人化対策にもつながるだろうと思います。

2027年より外国人技能実習制度は育成労働制度に変わります。すでに日本の食品パッケージは、外国人労働者なしでは安定供給ができない状況になっていると私は認識しています。食品パッケージは絶対になくならないアイテムです。日本人、そして外国人にとつても働きやすい環境を整えること、働いている人が希望持てる業界になるためには組合員皆様のご理解が大切だと思います。昨年の前半のNHK朝ドラは「あんぱん」でした。その中で「逆転しない正義」というセリフが出てきます。ドラマの中での逆転しない正義とは敵味方関係なく、お腹を空かせている人のために食べ物を届けることでした。

何が正義かわからなくなることが世界では起きていると感じていた矢先、この言葉は胸に刺されました。先行きが本当に不透明な時代ですが、時代が変わってもどんな状況にあっても人は食べますし、食べるためにはパッケージが必要です。業界にとって逆転しない正義とは何か？ 安定供給のために知恵を絞り業界の発展につながることができればと思いますので、本年もよろしくお願い申し上げます。

最後に会員皆様方のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新春のご挨拶とさせていただきます。

2026年

年頭所感

関西グラビア協同組合

理事長 高桑真樹



新年あけましておめでとうございます。

本年も宜しくお願ひ申し上げます。

2025年は、大阪・関西万博の開催により地域全体に活気があった一年でありました。万博によって生まれた人流や情報の動きは、直接的な需要にはつながらずとも、産業全体に前向きな空気をもたらしたことは確かです。

しかしながら2026年は、その外部の追い風も期待しづらく、まさに自社の力・業界全体の結束が問われる一年になると覚悟しております。

企業の努力はもちろんですが、横の連携を強めながら課題に立ち向かう姿勢が何より重要になると感じております。

また、2025年は関西グラビア協同組合にとって忘れ難い喪失の年でもありました。10年間という長きにわたり理事長として組合の先頭に立ち、関西のみならず全国のグラビア業界を牽引くださった自称「関西のドン」竹下晋司前理事長が、若くして急逝されました。豪放磊落でありながら、周囲への心配りを欠かさず、技術の未来、人材育成、組合の活性化に情熱を注がれた姿は、今も多くの組合員の心中に深く刻まれています。私自身、その遺志を引き継ぎ、組合を盛り上げ、業界発展のために力を尽くす覚悟を新たにしております。

2026年の業界環境は依然として厳しさが予想されます。原材料・エネルギーコストの不安定さ、環境対応への社会的要請の高まり、慢性的な人材不足、そして生産現場のデジタル化など、多くの課題を抱えています。

しかしどれだけ環境が変化しようとも、グラビア印刷は社会のさまざまな場面を支える重要な技術です。その価値と必要性を未来につなぐためにも、企業の垣根を越えた連携が欠かせません。

奈良県に拠点を置く私どもは、同じ奈良県出身の高市早苗総理の姿にも励まされています。数々の課題や政治的な困難を乗り越えながら、決して弱音を吐かず、1つひとつ前に進めておられる粘り強さは、まさに奈良の底力です。

私たち地方の中小企業も、その力強さに負けないように、そして共に歩む気持ちで前進して行きたいと決意を新たにしております。

「関西はやっぱり元気やなあ」と言われる一年にするために、組合員の皆様、賛助会員の皆様、そして全国の仲間の皆様と共に、明るい未来へ力強く歩みを進めてまいります。

そして本年 2026 年は、十二支の中でも勢いと躍動を象徴する午年でございます。

火のエネルギーを宿し、物事を前へ押し出す力を持つとされるこの年にあやかり、関西グラビアが培ってきた結束力と挑戦する精神を持って、一歩でも二歩でも大きく前へ踏み出す一年としたいと存じます。

皆様の益々のご健勝とご発展を心より祈念申し上げ、午年らしく、“勢いよく駆け抜ける”所存で、新年の所感とさせていただきます。

2026年

年頭所感

九州グラビア協同組合

理事長 母里圭太郎



新年あけましておめでとうございます。日頃は組合活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年はトランプ関税の影響が懸念されながらも円安の影響を強く受けた輸出や設備投資は底堅く推移し、日本初の女性首相となる高市首相誕生の時には日経平均株価は初の5万円台になりました。しかしながら、これらの経済指標が暮らしの豊かさに結びつくような実感は全く得られていません。株高の恩恵は一部の大企業などに留まり、全体には行き渡らず、企業数の大多数を占める中小企業は原材料やエネルギーのコスト高・賃上げ対応・人手不足で「元気のない」状態になっています。この現状が、株高と生活実感の乖離を生み出しています。

現状を打破するため、適切な価格転嫁を進めることや人的資源の確保がますます重要なになってきています。これは全国グラビア協同組合連合会・各地区協同組合の主張・活動と合致するものです。適正価格の取り引きによって賃上げ・設備投資の原資を確保することが、企業の成長を促進し、好循環が生み出されていきます。働き方においても、多様性を許容していくことが、人材の確保・定着率向上、イノベーションの創出につながっていきます。

我々の業界は、暮らしを支えるサプライチェーンの一翼を担い、生活の糧を全国の家庭に届ける重要な役割を果たしています。この業界の役割を広く知ってもらい、この業界全体が元気になることで生活の豊かさが全国に浸透していくことを願います。

「一燈照隅、万燈照国」

昨年ご逝去された関西グラビア協同組合前理事長、竹下晋司氏の文章で取り上げられていました言葉です。

1人ひとりの輝き・会社の輝き・組合の輝きが、全国さらには世界に広がっていくよう、希望に満ちた一年を皆様とともに作り上げていくことができるよう、精進して参る所存でございます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

皆様のご健康とご多幸を心より祈念致しまして、新年の挨拶とさせていただきます。

2026年

年頭所感

全国グラビア製版工業会連合会

会長 中嶋健一



旧年中は当工業会に対しまして格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

新しい年を迎えるにあたり、これまでの歩みを静かに振り返り、これから在り方をあらためて見つめ直すことの大切さを感じております。そのような折、日々の仕事や人との向き合い方について、時代を超えて示唆を与えてくれる言葉として、私が心に留めておりますのが「菜根譚（さいこんたん）」の教えでございます。

菜根譚は、明代の思想家・洪自誠によって著された処世訓の書で、儒教・仏教・道教の教えを融合し、人生や人間関係をいかに穏やかに、しかも芯をもって歩むかを説いています。その名は「菜の根のような質素なものでも、噛みしめれば深い味わいがある」という意味を持ち、華やかさや即時の成果を追うのではなく、日常の中にある小さな努力や忍耐を尊ぶ姿勢を私たちに教えてくれます。

菜根譚には「咬得菜根、百事可做（菜根を噛みしめることができれば、どんな事も成し遂げられる）」という言葉があります。困難や不遇の時期を避けるのではなく、真正面から受け止め、己を磨く糧とすることで、人は大きく成長できるという教えです。新しい年の始まりにあたり、私自身もこの言葉を胸に、目先の成果に一喜一憂することなく、足元の務めを大切にしてまいりたいと考えております。

また菜根譚は、順境においては驕らず、逆境においては嘆かず、常に心を平らに保つとの大切さを説きます。うまくいっているときほど慎みと感謝を忘れず、思うように進まぬときには焦らず静かに力を蓄える。その積み重ねが、やがて確かな実りとなると信じています。

人の関わりにおいても、菜根譚は寛容と誠実を重んじます。人の長所を見る心、恩を施しても見返りを求めない姿勢は、信頼を育み、長く続く良縁を築く礎となります。本年も、皆様とのご縁を何より大切にし、共に学び、共に成長できる一年にしてまいりたいと存じます。

結びに、昨年11月にご逝去された全国グラビア協同組合連合会副理事長、竹下晋司様に謹んで哀悼の意を表します。生前に賜りましたご厚情とご薰陶に深く感謝申し上げるとともに、そのご遺志を胸に刻み、本年も誠実に職務に精進してまいる所存です。あわせて、皆様のご健勝とご多幸、ならびに本年のご発展を心よりお祈り申し上げます。

「日本におけるベトナム労働者の中」式典 優秀なベトナム人受入企業として表彰

富士特殊紙業(株) 代表取締役社長 杉山真一郎

2025年11月30日(日)、「2025年日本におけるベトナム労働者の中」の式典が六本木ヒルズ・ハリウッドプラザにて盛大に開催されました。

式典ではベトナム駐日大使であるファム・クアン・ヒエウ氏が登壇し開会のあいさつを述べ、日本からは厚生労働省および法務省が出席、大臣からの書簡が紹介されました。

この式典の中で26名の優秀なベトナム人労働者と研修生、受入企業17社、6つの管理団体に表彰状が授与され、富士特殊紙業(株)(フジトク)は受入企業の1社として表彰されました。

理由としては、多くのベトナム人実習生を受け入れ、社内での日本語教育や勤務時間外でも日々の生活のサポートを行い、フジトクで長く働きたいと多くのベトナム人が思っているということを管理組合がベトナム大使館へ伝えたところ、大使より感謝したいとのことで実現しました。

当社では以前「GPJAPAN」(2025年3月号)にも寄稿しましたが、ベトナムの方にフジトクに慣れていただく、高いモチベーションで働いていただけるよう、年に数回ですがベトナムフェアを開催し、社員食堂のメニューにベトナム食を取り入れたり、毎週日本語教育を行ったり、休みの日の緊急時の対応などサポートをしております。

対応する日本の社員は大変ですが、その取り組みが今回の表彰という形でベトナム大使館から認められたのだと思います。ベトナム大使およびサポートしている当社の社員には

大変感謝の気持ちです。ありがとうございました。

日本には現在、45万人以上の外国人が生活および労働をしており、日本は2025年6月末までに約20万人の技能実習生と約15万人の特定技能外国人を受け入れており、ベトナムは国別では最大の日本への派遣国となっているとのことです。大使のスピーチの中で、昨今の外国人労働者に対する報道を意





識してなのか、式典に参加したベトナムの方に対し、「郷に入れては郷に従え」という言葉とともに、日本語能力、技能の向上、日本の法律を厳格に守り、日本企業、社会から信頼を得られるよう努力し、良好な関係を築き、将来ベトナムにも貢献してほしいという言葉が印象的でした。

私は多くの業種、企業にとってすでに外国人労働者なしではモノやサービスを提供できない、社会は回らないと思っています。当業界においてもすでにそういう状況でなければ、安定供給ができないと考えています。

そうであれば、彼らが働きやすい職場を会社が、地域が、社会が、整えていかなければならないでしょう。当社の経験からしても実習生の方は大変真面目で勤勉です。彼らとともに、社会インフラである食品パッケージの安定供給を今後も実現していきたいと思っております。

受賞を機に、今後もベトナムの方から選んでいただける企業になれるよう努力する所存です。



Information

東京計器、検査機器システムカンパニー住所移転

東京計器(株)検査機器システムカンパニーは、2025年12月15日より下記に移転して業務を開始した。

〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1 東京流通センター物流ビルA棟 AE1-1
代表TEL.03-5710-3291 (変更なし)
サービス課直通TEL.03-3732-3321 (変更なし)
FAX.03-3732-2077 (変更なし)

組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合青年部 2025 年秋季研修会

富士機械工業工場見学および水性印刷の実機デモ ハイブリッドグラビア印刷×水性インキテスト ～次世代環境対応印刷の可能性を探る～

報告者：信和産業(株) 石澤英樹

2025年11月21日(金)、関東グラビア協同組合青年部(原 卓実部長、三洋グラビア(株))は、午前9時30分頃より広島県・富士機械工業(株)八本松製作所様にて、2025年秋季研修会グラビア印刷機を用いた水性印刷の実機デモを開催しました。

冒頭、富士機械工業取締役の森永本部長様よりお言葉をいただき、その後、原部長の挨拶後に富士機械工業の内藤様より会社および印刷機の説明をしていただきました。

近年、印刷業界では環境負荷低減の観点から、VOC(揮発性有機化合物)排出量の削減が急務となっています。特にグラビア印刷は溶剤を多く使用するため、「大気汚染防止法」や自治体規制の強化によって、製造現場では排気設備の強化や溶剤管理の負担が高まっています。こうした背景のなか注目されているのが水性インキの活用です。水性化によって下記のメリットが期待できます。

- ・VOC 排出量削減
- ・溶剤使用量削減による環境負荷低減
- ・作業環境改善、安全性向上



- ・将来的な規制対応

一方で、従来の水性インキは乾燥性や印刷適性の課題があり、溶剤系インキの印刷と同等の生産性・品質を維持するにはハードルもありました。

これらを解決するアプローチとして開発されたのが、三洋グラビア様が特許を保有する「ハイブリッドグラビア印刷」です。

この技術は、溶剤系と水性インキの両方の特長を活かし、独自のレーザー製版加工を組み合わせることで、生産性と品質の向上が可能となります。

三洋グラビア様では白インキを水性化、色インキは従来の溶剤系インキを使用することで、印刷再現性と環境対応を両立し、VOC削減・CO₂低減などのサステナブルな生産体制を実現しています。

ハイブリッドグラビア印刷の主な特長

- ・溶剤系インキの使用により色再現性を維持しつつ、水性インキの環境性を両立
- ・色インキについては従来版シリンダーを使用可能、変更は白インキのみ
- ・印刷面積の大きい白インキを水性化することで溶剤使用量を削減
- ・印刷速度・生産性は従来の水準を維持しやすい

関東グラビア協同組合青年部では、2025年6月に開催された同組合のセミナーでの三洋グラビア様による『ハイブリッドグラビア印刷』のセミナーをきっかけに、業界全体での水性化対応を見据えて普及に向けた取り組みの検討を開始しました。

その1つの取り組みとしてインキメーカー4社（東洋インキ株・DICグラフィックス株・サカタインクス株・大日精化工業株）の協力を得て共同テストを実施しました。事前に八潮化学様のご協力のもと、印刷条件を統一して評価テストを実施。各社の最新水性インキを用いて、ベタ濃度・密着性・スクランチ・印刷適性などを比較しました。

なお、今回の八潮化学様での検証試験および富士機械工業様でのデモストレーションは、色インキ／白インキともに水性インキを使用した条件で実施しています。

<テスト概要>

- ・印刷基材：OPP # 20、PET # 12
- ・加工数量：4,000m
- ・色数：2色（藍、白）※2色とも水性インキ使用
- ・印刷スピード：100～150m／分
- ・乾燥温度：藍 60～65°C／白 75°C
- ・製版方式：レーザー（ハニカム／スクエア）



<評価結果（4社）>

評価項目	平均値・代表値	備考
白ベタ明度（L値）	約72	高い隠蔽性と光沢
藍／白濃度（C値）	約2.2	油性並みの濃度
テープ接着・スクラッチ	4～5点（5段階）	いずれも良好以上
印刷適性	概ね良好	一部でかぶり傾向あり

結果は、4社とも安定した印刷効果と印刷適性を実現しており、白インキの隠蔽性および藍の濃度についても従来の油性印刷と遜色ない水準となりました。密着性・耐擦過性についても全体的に良好で、ラミネート後の特性にも問題は見られませんでした。さらに、4,000mの連続印刷では版かぶりや泡立ちが少なく、長尺印刷でも安定した結果が得られました。これらの結果から、水性インキが十分な実用水準に達していることが確認されました。

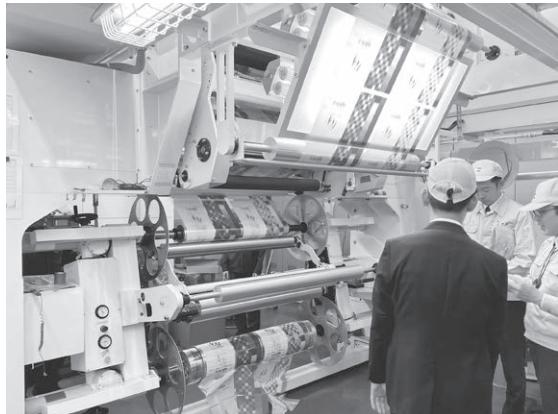
研修会デモストレーション印刷概要

11月21日（金）、富士機械工業様のご協力のもと、ハイブリッドグラビア印刷のデモストレーションが開催されました。

今回は東洋インキの水性インキ「アクワエコールSX」を使用し、多数の組合員企業に参加いただいて、実際の印刷状態や仕上りと一緒に確認しました。また、会場では事前に作成した4社の水性インキによる製袋サンプルも配布され、濃度・再現性・版仕様の違いなどの特性を確認しました。

実際の生産ラインで水性印刷の挙動を見ることで、「水性への移行に向けて、現場として何が必要か」「どこまで実用レベルで対応できるのか」といった具体的な議論が進む、有意義な機会となりました。

これまで「水性インキは生産性や印刷適性に課題がある」と言われてきた中で、ハイブリッドグラビア印刷技術を導入することで、従来の溶剤系インキの印刷と同等レベルの品



質で加工が可能なことを実証できた点は大きな成果だと考えます。

今回の共同テストおよびデモストレーションは、多くの企業・メーカーのご協力により実現したものであり、グラビア印刷の次なる進化の方向性を示す重要な一歩となりました。

ハイブリッドグラビア印刷は、「品質」「環境配慮」「安定生産」を兼ね備えた新たな印刷技術として、今後さらに注目が集まることが期待されます。

なお、本技術に関する詳細や導入のご相談は、三洋グラビア様および各インキメーカー各社までお問い合わせください。

最後にデモストレーションにご協力いただきました多くの企業・メーカー様並びに、遠路ご参加いただいた会員の皆様、誠にありがとうございました。

i Information

DIC グラフィックス、「DIC デジタルカラーガイド」にAI 配色検索機能搭載

DIC グラフィックス(株)は、デザイン・印刷・マーケティング業務を支援する色見本帳アプリ「DIC デジタルカラーガイド」に、業界初(2025年12月時点、同社調べ)の「AI 配色検索機能」を新搭載した。

同機能は、「春」「地域の名物」「オーガニック食品」などのキーワードを入力するだけで、AI がテーマに沿った DIC カラーガイドシリーズの色番号を提案。コンセプト設計から制作・印刷までをシームレスに結ぶ“実務対応型 AI”として開発され、広告、パッケージ、販促物の制作現場での時間短縮と品質向上を実現する。

活用例

キーワード	提案される色の例	利用シーン
春	桜ピンク、若葉グリーン	キャンペーンポスター
大阪名物	粉もの文化やソースを想起する色	観光イベントの告知
オーガニック食品	自然・素材感のあるトーン	パッケージデザイン



主な特徴は次の通り。

- (1) AI が色を提案
キーワードに関連する色と配色を自動提示
- (2) DIC カラーガイドの色番号を表示
提案色は全て DIC カラーガイドシリーズから選定
- (3) 実務への接続性
印刷・製造・パッケージ開発にそのまま活用可能

組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合青年部

令和7年度忘年会

▶ 関西グラビア協同組合青年部（堀川 孟部長、日新シール工業株）は、2025年11月28日（金）、29名の参加を得て「玄品ふぐ難波別館」を貸切り、令和7年度青年部忘年会を開催しました。



関西グラビア協同組合青年部
堀川 孟部長

午後6時、堀川 孟青年部部長が開宴に際し、2025年11月1日にご逝去された関西グラビア協同組合前理事長・竹下晋司氏（株ダイコー）を偲び、全員で黙祷を捧げました。併せて、1999年の青年部発足当初より多大なご尽力を賜り、青年部部員の交流を深めるため全国大会を企画し、当初は関東と関西のみであった交流を全国へと広げられた功績に対し、深く感謝の意を表しました。さらに、2025年9月に関西主催で開催した第4回青年部全国大会について、大阪万博など困難な状況下で組織交流委員が一丸となり、それぞれの役割を果たして円滑に運営できしたこと、また参加者から

高い評価をいただけたことは、竹下前理事長にも喜んでいただけたのではないかと述べました。

続いて、米谷郁彦青年部理事（芳生グラビア印刷株）の乾杯の音頭により忘年会が開宴しました。ふぐ皮の湯引き、てっさ、焼きふぐ、ふぐ唐揚げ、てっちりなど、次々に供されるA5ランク天然とらふぐコース料理やヒレ酒を楽しみながら、賑や



乾杯の音頭は青年部の
米谷郁彦理事

かに情報交換が行われました。全国大会に向けて幾度も会議を重ね、一丸となった経験は、互いをより身近に感じさせ、会員同士の絆をさらに深める場ともなりました。その過程で培われた協力と信頼は、温かく打ち解けた結束へとつながり、今後の青年部活動を支える大きな力となることを確信しました。



締めは青年部の
吉田貴亮副部長

途中、新加入の米田大祐会員（東京計器株）、初参加の原 宗磨会員（赤松化成工業株）、池田真佐夫会員（株ヒューテック）

から一言ずつ挨拶をいただきました。中締めは吉田貴亮青年部副部長（新生紙化工業株）が務め、来年開催予定の第19回グラビア技術研修会においても会員の協力を仰ぐ旨を述べ、恒例の万歳三唱をもって午後8時30分、青年部の本年最後の行事を無事終了しました。



懇親会 snapshot



組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合

令和7年度年末情報交換会を開催

▶ 関西グラビア協同組合（高桑真樹理事長、(株)ダイドー）は、2025年12月5日（金）午後6時より、ヒルトン大阪35階「ウィンドーズ」にて、111名の参加を得て「令和7年度年末情報交換会」を開催しました。



司会進行は吉田貴亮会員

司会進行は新生紙化工業(株)の吉田貴亮会員が務め、開宴の発声の後、去る11月1日にご逝去された前理事長・竹下晋司氏（株）ダイコー）を偲び、全員で黙祷を捧げました。竹下前理事長が常々語っていた「組合の存在意義は会員が一堂に会し、情報交換の場を設けることにある」との言葉どおり、多くの会員が参集したことに謝意が述べられました。続いて、高桑真樹理事長が挨拶に立ち、「本年を振り返ると、業界全体に大きな動きや明るい話題は少なく、先行き不透明な1年でした。そのような中でも各社の努力に敬意を表します。加えて、若くしてご逝去された竹下前理事長の功績に深く感謝し、その志を継承して業界発展に努めてまいります。当社と同じ奈良出身の高市早苗首相と同じく、働いて、働いて、さらに頑張っていかなければなりません。次世代が夢と希望を持てる業界、そして関西グラビアを築くため、皆様と共に一層努力していきたいと思います。今年も残りわずかですが、最後まで力を尽くし、本日の忘年会を親睦の場として有意義に過ごしましょう。



賛助会員を代表して
東洋インキ(株)
星野谷健司部長が挨拶

司会進行は新生紙化工業(株)の吉田貴亮会員が務め、開宴の発声の後、去る11月1日にご逝去された前理事長・竹下晋司氏（株）ダイコー）を偲び、全員で黙祷を捧げました。竹下前理事長が常々語っていた「組合の存在意義は会員が一堂に会し、情報交換の場を設けることにある」との言葉どおり、多くの会員が参集したことに謝意が述べられました。続いて、高桑真樹理事長が挨拶に立ち、「本年を振り返ると、業界全体に大きな動きや明るい話題は少なく、先行き不透明な1年でした。そのよう



関西グラビア協組の
高桑真樹理事長

併せて重要なお願いがあります。組合会計が様々な要因で逼迫しており、来期からの賦課金改定を理事会で審議中です。特に全グラとの賦課金算定方式の違いから逆転現象が生じており、算定方式の統一が急務となっています。そのため業態調査を前倒しし、来週よりFAXで実施いたします。算定の基礎資料となりますので、正確なご記入とご協力をお願い申し上げます」と述べられました。

その後、賛助会員を代表して東洋インキ(株)リキッドインキ



新規加入挨拶をする(株)ダイキンアプライドシステムズの神村知宙四国統括営業担当リーダー



関西グラビア協組の
田中規貴副理事長

営業本部関西営業部部長の星野谷健司氏が挨拶に立ち、「今年も残り1ヶ月となりました。今年は已年で『努力を積み重ね、物事を安定させていく年』として始まり、大阪万博では2901万人が来場し、大きな成果を挙げました。関西でこのような盛会が行われたことを喜ばしく思います。努力の年を経て、来年は60年に一度の丙午で飛躍の年となります。本日は短い時間ですが、皆様と懇親を深め、楽しいひとときを過ごしたいと思います」と述べ、乾杯の音頭で宴会が始まりました。途中、今期新たに組合加入された(株)ダイキンアプライドシステムズ 大阪支店第二営業グループ 四国統括営業担当リーダー・神村知宙氏より加入挨拶があり、2時間にわたり食事と歓談が続きました。

最後に役員一同が登壇し、田中規貴副理事長（淀川加工印刷株）が代表して、「今年5月の通常総会で副理事長を拝命し、全国グラビア協同組合連合会理事として理事会にも出席しています。業界発展に向けた議論が毎回熱心に行われており、関連資料は今後メールマガジン等で会員の皆様に共有していきたいと考えています。今年は(株)グラビアジャパンの新酒健広理事、(株)ダイコーの竹下晋司前理事長のご逝去という悲しい出来事もありましたが、故人の志を継ぎ、関西グラビア協同組合を一丸となって盛り立てまいります」と挨拶しました。締めくくりは司会者で「万歳三唱マイスター」の吉田会員が登壇し、恒例の万歳三唱を行い、午後8時、関西グラビア協同組合の今年最後の行事は盛会のうちに終了しました。



吉田会員による万歳三唱で締めくくり

懇親会 snapshot





機能性と環境性の両立を目指して業界横断で連携

報告者：全国グラビア協同組合連合会
専務理事 下田幸二

2025年12月10日(水)～12日(金) 東京ビッグサイト・東ホールにてエコプロ2025(第27回)が開催されました。脱炭素、資源循環、環境配慮設計等をテーマに、約550の企業・団体・学校等が出展し、大変賑やかな展示会となりました。社会全体が持続可能性へと大きく舵を切る中、グラビア印刷業界にとっても重要な示唆に富む展示会であったと実感しました。

リサイクル対応フィルム、モノマテリアル化を意識した構成、バイオマス原料の活用、インキや接着剤を除去する脱墨化技術、再生材を活用した包装資材の提供等、軟包装分野にも直結する展示も多く見られました。内容物の保護性やシール適性、加工工程への対応など、実使用を想定した技術説明も多く、実務に直結する情報が整理されていました。環境対応が既に“前提条件”となっており、軟包装分野においても、機能性と環境性能の両立が不可欠な時代に入っていることが感じ取れました。

包装表示に関する展示では、環境配慮をどのように消費者へ伝えるかという観点から、リサイクル表示や素材構成の明示方法に関する事例が紹介されていました。エコプロは、環境技術の展示にとどまらず、企業間での情報共有や課題整理の場としても機能しています。軟包装分野においては、素材選定、設計、製造、回収までを含めた全体最適の視点が求められており、個別技術の積み上げだけでなく、業界横断的な連携の必要性が示されていました。軟包装業界を取り巻く環境の方向性が、より具体的な技術・設計レベルで整理されつつある状況が確認されました。今後、現場レベルに落とし込み、実装へ繋げていくことが重要であると感じました。



西は永遠の友

vol.12

田口 薫

ミシュランはフランスのタイヤメーカーだが、100年ほど前のパリ万博で各地から来る観光客のためにレストランの評価を星で表示して、良い店を育てようとした。非常に権威のあるもので、星を1つ減らされたレストランのシェフが自殺したというくらいだ。しかし、裏を返して意地悪く見れば、食い物が不味いから星の付いた店でなければまともなものは食べられないと私は解釈する。その訳は、欧米では美食は一部の上流の専一で一般人は大したものを見ていないからである。



ゴッホの絵に当時の農民の夕食風景を描いたものがあったが、汚れた服と手指でわずかなじやがいもをふかしたものを見ている。

フランスからスペインの聖地巡礼、サンチャゴ～コンポステーラまで約900km。旅籠はあったが、きちんとしたベッドもなく、太いロープが張ってあり、これに寄りかかって眠るような宿もあったようだ。日本では成田参り、大山参り、伊勢参り、西国三十三力所、四国八十八力所、熊野道の巡礼がある。他にも、坂東三十三力所、秩父三十四力所等、多くのコースが用意されており、旅籠も揃っていたし食事も出る。時には大広間に布団を敷いて雑魚寝になることもあったと思う。また、寿司、天ぷら、おでんは、江戸の魚河岸で足が早い（腐りやすい）ので、捨てられていた小魚を酢でめる、油で揚げる等して、脱水や殺菌してすぐに食べられるファストフードとして庶民に好まれた。

フランス料理は公館料理といって、日本でいえば大名料理だ。ついでに、フランス料理にキャビアが登場したのはナポレオンのロシア遠征で料理人を連れて帰ってきたからで、ロシア風のカナッペ等が前菜に取り入れられたそうだ。多くの観光客が来日しているが、食いものの美味しいこと、安いことに感動して帰られる。

中国人はグルメというが、北池袋は中国人だらけ、ガチ中華だらけだが、中国の現地の味そのもので決して美味しいとは言えない。しかし、新疆ウイグル自治区や奥地の料理が日本で食べられる。

私はガチ中華には行かないが、麻辣湯（マーラータン）は食べる。中国の湖南、四川の

郷土料理で、鶏ガラのスープに麺が入っており、数十種類のトッピングから選んで茹でてもらい、最後に唐辛子と山椒の入った赤いソースを辛味の程度を聞いて振りかける。暑い夏は辛い思いをして食べて汗をかいてスッキリする。中国のチェーン店「楊国福」が全国にあるが、個人経営の店の方が美味しいと思う。麻辣湯の安くて美味しい店があれば教えてもらいたいくらいだ。昔は香港で安くてうまい本格中華が食べられたが、中国共産党が香港を束縛したので名店がなくなった。その後、香港には行っていないが残念だ。



中国の酒には白酒、黄酒がある。白酒はアルコール度数 50% 前後で小さな盃に注いで一気飲みさせる。食道がヒリヒリする。油っこい中華に合うといわれるが、どうだろうか？ 白酒の作り方は高粱（コウリヤン）などの穀物にクモノスカビを増殖させた麹を使用する。そして、地面に掘った粘土で作った小さなプールのような穴の中に入れて発酵させる。

価格は、「貴州茅台酒（きしゅうまおたいしゅ）」は 6.6 万円、「五糧液（ごりょうえき）」2.8 万円、「紅星二鍋頭酒」1,600 円／700mL と大きな開きがある。中国の上流と下流の差の大きさを垣間見る思いがする。

黄酒の代表は紹興酒。上海の紹興市で作られているから紹興酒という。度数は 16%。もち米が原料だが清酒とは麹や酵母が全く違い、常温の甕（かめ）の中で 3 年、5 年、8 年と寝かせる。最近は 20 年酒、30 年酒もあるが、ウイスキーやブランデーと違い、格別に味が上がるとは思わない。20 年酒、30 年酒も飲んだが、8 年ものとあまり変わっていないようだ。

黄酒は上海周辺で飲まれているが、隣の湖南省では置いていない。中国の酒類はビール、葡萄酒（ピータオチュウ）、白蘭地（パイランディ、ブランデー）で、白蘭地は日本の中に負けない。山東省で昔から作られている。

ウイスキーも台湾の「カバラン」がデパートに並んでいる。ウイスキーはスコットランド、ブランデーはフランスの専売特許ではなくなり、世界中で良いものが作られるようになった。日本酒にも世界でのビジネスチャンスが広がったのではないか。